

地域ぐるみで取り組みましょう

ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために

全国的にジャンボタニシ（スクミリングガイ）の発生が増えています。作付前の耕うんや薬剤の適切な散布など防除対策を組み合わせることで水稲での被害を防ぎましょう。地域ぐるみで取り組めば、さらに効果的です。



ジャンボタニシ
(スクミリングガイ)



用水路（水口）の卵塊



食害を受けた水田

【生態】

- ・ 成貝の殻高は2～7 cm程度、寿命は2～3年。周年活動しているが3月頃から摂食や交尾を活発になり夏季には盛んに繁殖します。
- ・ 落水後は土中に潜り活動を停止し、無水でも半年以上生存し、湛水すると再び活動します。
- ・ 母貝は夜間に数十～数百個のピンク色の卵塊を産卵します。卵は約10日で孵化、2ヶ月で成貝になります。

【被害】

- ・ 深水となった部分で被害が生じやすく、食害された場合には欠株となります。
- ・ 田植え後、約3週間までの柔らかく小さな苗を食害し、特に稚苗を移植した場合に被害が大きくなります。
- ・ 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいることがあるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないでください。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗いましょう。

【お問い合わせ先】

八重山農林水産振興センター 農業改良普及課 0980-82-3497
JAおきなわ八重山地区営農振興センター 0980-82-2006

ジャンボタニシの防除対策①秋冬編

1期の作付け前に、以下の防除対策を実施し、**個体数を減らすこと**が重要です。

○ 稲刈り後の石灰窒素（発生量が多い場合に実施）

殺貝効果のある石灰窒素を散布。

いつ・どのように

- ・水温が17℃以上の時期に、3～4日間湛水を保った後、石灰窒素を10aあたり20～30kg全面散布し、そのまま3～4日湛水を保つことで貝を致死させる。
- ・田植前の場合は散布から田植まで7日以上空ける。

留意事項

- ・魚毒性が高いため、田面水は水路に流さず自然落水させる。
- ・窒素成分を多く含むため、次作の施肥量を減らす調整が必要。
(石灰窒素20～30kgは窒素4～6kgに相当)



○ 冬期の耕うん（発生している場合に必ず実施）

物理的な破碎を行うとともに貝を寒風にさらす。

いつ・どのように

- ・土壌が乾燥して固いタイミングに、トラクターの速度を遅く、PTO回転を速く（ロータリーの回転を速く）し、土壌を細かく砕くように耕うん。

留意事項

- ・未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、使用後のトラクターに付着した泥を洗浄。



○ 冬期の畦畔の草刈りと除草剤散布（発生量が多い場合に実施）

越冬場所をなくすため、草刈りと除草剤散布を地域全体で行う。

いつ・どのように

- ・1期作植付前および生育期間中に実施。



ジャンボタニシの防除対策②田植時まで

田植前は以下の防除対策を組み合わせ**個体数を減らすことが重要**

○水路からの侵入防止（発生量が多い場合に実施）

取水口・排水口にネットや金網を設置し、貝の侵入を防止する。



いつ・どのように

・取水口・排水口に9mm目合程度のネットや金網を設置し、水路の個体を水田に侵入させない。

留意事項

- ・ネットや金網に付着した貝は踏んで潰す等、確実に殺貝する。
- ・網目は粗いと稚貝がすり抜け、細かいと枯れ草等ゴミですぐ詰まるため9mm目合が適当。

○育苗箱への薬剤使用（発生量が多い場合に実施）

食害防止効果があるカルタップ粒剤を含む薬剤（商品名：パダン粒剤4等）を育苗箱に施用する。



いつ・どのように

- ・は種前に育苗箱床土に均一に混和する、または移植当日に育苗箱の苗の上から均一に散粒する。



留意事項

- ・殺貝効果はない。あくまでも食害防止効果。
- ・貝の発生が多い圃場では本田の薬剤防除と組み合わせ実施する。

○卵塊の捕殺（発生している場合に必ず実施）

水田内に侵入する個体を減らすため卵塊を水中に削り落とすか押しつぶす。



留意事項

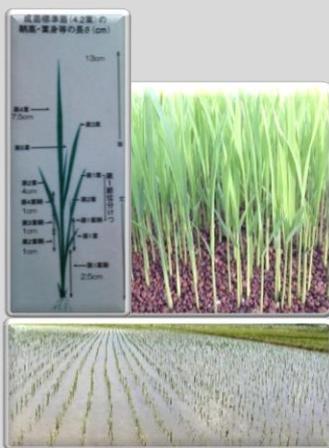
- ・ジャンボタニシには人体に有害な寄生虫（広東住血吸虫）がいる場合があるため、ゴム手袋、ゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないようにする。

○中成苗移植と浅水管理

- 食害されにくい4葉期以上の中苗～成苗植え
- 田植後2～3週間は1cm以下の浅水管理

留意事項

- ・育苗期間が長くなるため播種量・肥培管理等に注意する。
- ・凸凹がある圃場では田面の深いところで貝が発生し集中的に食害されるため田植え前の代かきを丁寧に圃場の傾斜や凸凹をなくす。
- ・水位が極端に低下すると初期生育への影響が生じる可能性と、除草剤の効きが悪くなるので、水管理はこまめに行う。



ジャンボタニシの防除対策③田植後

田植後は、以下の防除対策を実施し、**個体数を減らすことが重要**です。



○ 薬剤散布 (発生している場合に必ず実施)

メタアルデヒド粒剤、燐酸第二鉄粒剤、チオシクラム粒剤等の登録薬剤を散布する (商品名: スクミノン、ジャンボタニシくん、スクミンベイト等)

いつ・どのように

- ・被害が出る前に、湛水状態で圃場全面に均一散布、あるいは深水部分へ局所散布、畔に沿って額縁散布など適切に散布する。

○ 他にこんな方法も…

米ぬかトラップを取水口付近にセットし、ジャンボタニシが集まったところで一網打尽に。



材料: 2Lペットボトル、水切りネット、固定用紐、米ぬか (ネットはご家庭にあるものを活用ください)



ペットボトルに目打ちで数カ所穴を空ける



ペットボトルの上部を切り取る



水切りネットを被せて紐で固定し、底部分を切り取る



水切りネットをペットボトル内に押し入れ完成



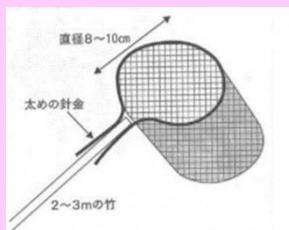
米ぬかをひとにぎり(50g程度)入れる



水田の取水口付近にトラップを設置



一晩で集まった貝 (R2.8月 石垣市) 1~4日間は効果持続。



くず野菜の柔らかい部分を餌に

ナス、キャベツ、リーフレタス等の柔らかい部分を切って水田に入れ、ジャンボタニシが集まってきたところを補虫網で一網打尽に。